

平成18年 3月1日	<b>病害虫発生予報</b> <b>3月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------	------------------------------	------------------------

**安全・安心な農作物は、農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！**  
**—農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます—**

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
ナシ：黒星病	1
イチゴ：うどんこ病	1
促成ピーマン：タバココナジラミ類	1
促成・半促成ピーマン：ヒラズハナアザミウマ，ミカンキイロアザミウマ	2
促成トマト：オンシツコナジラミ	2
促成キュウリ：褐斑病，べと病	3
施設野菜(ピーマン，イチゴ，トマト，キュウリ)：灰色かび病	3
<b>【その他の病害虫】</b>	4
イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成キュウリ，メロン，春レタス，春ハクサイ	
<b>II. 病害虫ミニ情報</b>	
水稻育苗中に発生する病害の対策について	5
ナシ黒星病菌のDMI (EBI) 剤耐性菌の検定結果について	6
農薬登録速報(1月)の概要	7
<b>III. 病害虫資料室</b>	
今月号の注意すべき病害虫から (ナシ黒星病)	9
<b>IV. 今月の気象予報</b>	
	10
<b>V. テレホンサービス</b>	
	10
☆普通作物	029 (226) 5321
☆園芸作物	029 (226) 6131
本文に記載された農薬の登録内容は、平成18年2月22日現在のものです。 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。	
詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス <a href="http://www.jpnn.ne.jp/ibaraki/">http://www.jpnn.ne.jp/ibaraki/</a>	

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### ナシ

##### 1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県南・県西地域

[予報の根拠]

- ① 平成 17 年 11 月上旬の調査で、県南及び県西地域におけるナシ黒星病秋病斑の発病度及び発生地点率は過去 5 年中最も高く、ナシ黒星病菌の越冬量は例年より多いと予想される。
- ② 気象予報(2月24日発表)によると、向こう 1 か月の気温は平年並か高く、天気は曇りや雨の日が多いと予想されることから、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 罹病した葉は一次伝染源となるため、園内に落葉が残っている場合は落葉を集め、土中深く埋めるなど適切に処理する。
- ② 果そう基部での発生は葉や果実への二次伝染源となるため、防除暦に記載されている、催芽～萌芽期(3月下旬)のデランフロアブルを確実に散布する。県北地域においても、昨年ナシ黒星病の発生が多かった園では、3月下旬の防除を必ず行う。
- ③ 薬剤散布は、10a 当たり 300ℓを目安に、かけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤散布の際は、ドリフト等により薬液が周辺に飛散しないよう、十分注意する。

※病害虫発生予察注意報第 3 号(2月27日発表)参照

#### イチゴ

##### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2 月下旬現在、発病葉率は平年並で、発生地点率は平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高いと予想されることから、ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。

[防除上注意すべき事項]

- ① 罹病した葉や果実などは、ハウス内に放置せずにはハウス外へ持ち出し土中深く埋める。
- ② 薬剤は、収穫前日数等に注意し、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。
- ③ 曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ④ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

#### 促成ピーマン

##### 1. タバココナジラミ類

[予報内容]

(促成ピーマン タバココナジラミ類続き)

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率は1.8%、発生地点率は50%である。
- ② 今後は、気温の上昇に伴い、ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本年1月、ピーマンでタバココナジラミ バイオタイプQの発生を初めて確認した。これまで、ピーマンではコナジラミ類の発生を認めていなかったため、ピーマンでコナジラミ類が発生している場合は、タバココナジラミ バイオタイプQである可能性が高い。
- ② 生息密度が高くなると果実にすす症状を生じるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ タバココナジラミ バイオタイプQは薬剤抵抗性が発達しているため、黄色粘着板など物理的防除法も活用する。 ※病害虫発生予察特殊報第4号(1月30日発表)参照

## 促成・半促成ピーマン

### 1. ヒラズハナアザミウマ, ミカンキイロアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率及び発生地点率は平年より高く、半促成ピーマンでは平年並である。
- ② 今後は、気温の上昇に伴い、ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 両種とも黄化えそウイルス(TSWV)を媒介するとともに、生息密度が高くなると果実に被害を及ぼすため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や花にも良く付着するよう丁寧に行う。
- ③ 薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

## 促成トマト

### 1. オンシツコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率、発生地点率とも平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除する。
- ② コナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布は、薬液を下方から吹き上げるようにするなど、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

## 促成キュウリ

### 1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病葉率、発生地点率とも平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高いと予想されることから、ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件下での伝染力が高いため、十分に換気しハウス内を除湿する。
- ② 発生の少ないうちに、防除を徹底する。
- ③ 新たな伝染源とならないよう、病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。
- ④ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

### 2. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病葉率、発生地点率とも平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高いと予想されることから、ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が高温多湿になると発生しやすくなるので、十分に換気しハウス内を除湿する。
- ② まん延すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

## 施設野菜(ピーマン, イチゴ, トマト, キュウリ)

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成ピーマンでやや多い発生で、半促成ピーマン、イチゴ、促成トマト・キュウリでは、平年並の発生である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高いと予想されることから、ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

(施設野菜 灰色かび病続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が少ないうちに、防除を徹底する。
- ③ 発生した場合は、発病部位を取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	アブラムシ類	発生量： 平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。今後は，気温の上昇に伴い増加する。
	コナジラミ類	発生量： 平年並	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。今後は，気温の上昇に伴い増加する。
	ハダニ類	発生量： やや少ない	2月下旬現在，平年より少ない発生である。今後は，気温の上昇に伴い増加する。
促成・半促成 ピーマン	うどんこ病	発生量： 平年並	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成 キュウリ	うどんこ病	発生量： 平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
メロン	つる枯病	発生時期： やや早い 発生量： やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されることから，ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。
春レタス	菌核病	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。また，発生を認めた場合は，菌核が圃場に残らないよう発病株を抜き取り，圃場外へ持ち出す。
	腐敗病	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が高湿多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。
春ハクサイ	べと病	発生量： やや多い～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。

## II. 病害虫ミニ情報

### 水稻育苗中に発生する病害の対策について

育苗中に発生する病害は、発生すると防除が難しいため、予防的な対策を万全にする必要があります。病原菌に汚染された種子及び用土や資材が伝染源となるため、種子消毒と併せて病原菌のない用土や資材を用いることが必要です。また、育苗中は適正な温度、水管理を行うことも、育苗中に発生する各種病害を抑制する重要なポイントとなります。

#### 1. 病害の種類と対策について

育苗中に発生する主な病害として、いもち病、ばか苗病等の糸状菌（カビ）による病害と、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等の細菌性の病害があります。これらは病原菌に汚染された種子が伝染源で、種子消毒が有効です（種子消毒については、病害虫発生予報2月号をご覧ください）。

この他、フザリウム菌や、リゾープス菌等の糸状菌による病害である苗立枯病は、土壌や育苗資材が主要な伝染源で、病原菌のない用土や資材を用いることが対策として重要です。

#### 2. 対策

##### 1) 育苗前の作業について

①前年使用した育苗箱は、よく洗浄し、ケミクロンG又はイチバンで消毒します。

②育苗用土は、殺菌された pH4.5～5.5 のものを用います。自分で用土を用意する場合は pH を調整し、苗立枯病の対策として薬剤を用土に処理します。薬剤にはダコニール粉剤、タチガレエース粉剤、ダコニール 1000、タチガレエース液剤、バリダシン液剤 5 等があります（平成 18 年 2 月 22 日現在）。

なお、薬剤の処理は、他の作物を栽培する場所では行わないでください。

③育苗ハウス内の水が溜まる部分は、過湿となって、病害が発生しやすいので、育苗ハウスの床は平らに整地し、部分的に水が溜まらないようにして下さい。

##### 2) 育苗中の管理について（図1）

育苗中の極端な低温や高温は、病害の発生を助長します。育苗ハウス等の温度管理には十分注意して下さい。

①出芽時の温度は 28～30℃とし、必要以上に高めないようにします。出芽が悪い、ムラがあるといった理由で、温度を高めると、病害の発生を助長します。  
浸種時に適温でじっくり吸水させてから鳩胸状態まで催芽（芽出し）して播種することが大切です。

②緑化期（出芽揃い～本葉第1葉期）までは、昼間 20～25℃、夜間は 15～20℃とします。

③硬化期は昼間 20～25℃、夜間 10～15℃とします。  
緑化期、硬化期は多湿になりすぎないように注意し、かん水量は夕方にはやや乾く程度とします。

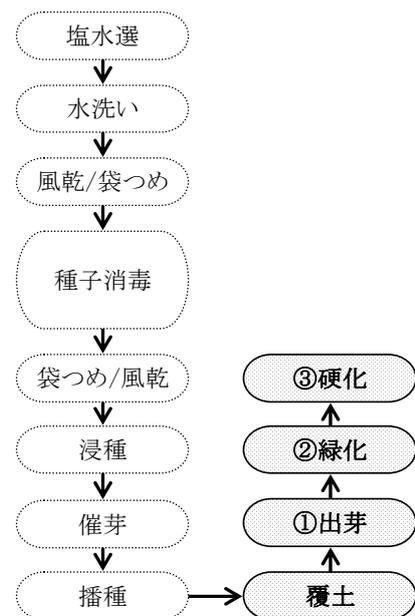


図1 作業の流れ

## ナシ黒星病菌のDMI (EBI) 剤耐性菌の検定結果について

ナシの重要病害であるナシ黒星病に対して予防及び治療効果の高いDMI (EBI) 剤は、特効薬として広く使われています。しかし、薬剤耐性菌の増加によって防除効果が低下すると、黒星病が多発する恐れがあります。そこで、耐性菌の出現状況を把握するため、黒星病菌のDMI 剤に対する耐性菌の検定を行いましたので、その結果と防除上注意すべき事項についてお知らせします。

※DMI (EBI) 剤；病原糸状菌類の代謝の一部を阻害する殺菌剤の総称で、ルビゲン水和剤、インダーフロアブル、スコア水和剤 10、アンビルフロアブル等があります。

### 1. 検定結果

県内のナシ園から採集した黒星病菌191菌株について、ルビゲン水和剤を用いて耐性菌の検定を行いました。ルビゲン水和剤に対する50%生育阻止濃度 (EC<sub>50</sub>) が1.0 μg/ml以上のものを耐性菌と判定した結果、耐性菌は各地域のナシ園で確認され (6地点中4地点)、供試菌株に対する耐性菌株率は5.6~16.7%で、平均11.5%でした (第1表)。

第1表 ナシ黒星病菌のルビゲン水和剤に対する感受性検定結果 (平成17年)

採集地	地点数	供試菌株数	感受性菌株数	耐性菌株数	耐性菌株率 (%)
県北	1	42	35	7	16.7
県南	3	54	51	9	5.6
県西	2	95	89	12	12.6
計	6	191	169	22	平均 11.5

国内のこれまでの調査事例からは、DMI剤耐性菌株率が10%前後である場合には、ただちに圃場での防除効果の低下となるわけではないと考えられています。

しかし、耐性菌株率が増加した場合には、防除効果が低下する恐れがあります。したがって、今後も耐性菌の出現状況を把握するとともにDMI剤を適切に使用していく必要があります。

### 2. 防除上注意すべき事項

現在、県内のナシ園でDMI 剤の防除効果が低下したという報告はありません。

しかし、ナシ黒星病の防除において、DMI 剤を連続使用したり、年間の使用回数が多くなると、耐性菌の出現を助長する可能性があります。



DMI 剤の年間使用回数は、黒星病の重要防除時期であるりん片脱落直前 (4月上旬) および落花期 (4月下旬) と、品種「幸水」の果実が黒星病に感染しやすい7月中旬の計3回を基本とし、「平成18年版茨城県赤ナシ無袋栽培 (ジベレリン無処理) 病害虫防除暦」を参考に適切な防除を行なって下さい。

## 農薬登録速報（1月）の概要

平成18年1月期間中（1/1～1/31）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

○ 殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規>ビームダントツH粉剤DL, 協友ダントツH粉剤DL, 石原イサパリ, 風神フロアブル  
変更>Dr. オリゼダントツ箱粒剤, アグレプト水和剤, アプロードスミモンラブF粉剤DL, ア  
ブロードラブサイドバッサ粉剤DL, イッカツ粉剤DL, カスラブサイドDF, カスラブジョ  
ーカーDF, カスラブジョーカー粉剤3DL, カスラブスミバッサ粉剤50DL, カスラブバ  
リダジョーカー粉剤3DL, カスラブバリダジョーカー粉剤DL, カスラブバリダスターク  
ル粉剤3DL, カスラブバリダスタークル粉剤DL, カスラブミミックジョーカー粉剤3DL,  
カスラブミミックジョーカー粉剤DL, クミアイスミチオン乳剤, クレハラブサイドモンセ  
レンフロアブル, コルター2号F粉剤DL, サスペンダーF粉剤DL, サンケイスマチオン乳剤,  
サンケイブラシントレバリダ水和剤, サンケイブラシントレバリダ粉剤DL, サンケイブラシ  
ントレボン粉剤DL, サンケイブラシンバリダゾル, サンケイブラシンバリダフロアブル, サン  
ケイブラシンバリダ粉剤DL, サンケイブラシンフロアブル, サンケイブラシン水和剤, サン  
ケイブラシン粉剤DL, サンケイマイシン20水和剤, サンケイラブバリダトレボン粉剤D  
L, ストロビーフロアブル, セイビアフロアブル20, ダーズバンDF, タフバリア粒剤0.  
5, ダントツオリゼメート24箱粒剤, バイエルヒノラブバイアドマイヤー粉剤DL, バイエ  
ルヒノラブバイジット粉剤35DL, バイエルヒノラブバイトレボン粉剤35DL, バイエル  
ヒノラブバイバッサ粉剤35DL, バイオセーフ, バイデートL粒剤, ハスラー粉剤DL, ビ  
ートルコップ顆粒水和剤, ブラシンジョーカーフロアブル, ブラシンジョーカー粉剤DL, ブ  
ラシンゾル, ブラシندانトツH粉剤DL, ブラシندانトツ粉剤DL, ブラシントレパダン  
粉剤DL, ブラシントレバリダ水和剤, ブラシントレバリダ粉剤DL, ブラシントレボン水和  
剤, ブラシントレボン粉剤DL, ブラシンパダントレバリダ粉剤DL, ブラシンパダンバリダ  
ベスト粉剤DL, ブラシンパダンバリダ粉剤DL, ブラシンパダンベスト粉剤DL, ブラシ  
ンバリダジョーカー粉剤DL, ブラシンバリダゾル, ブラシンバリダダントツH粉剤DL, ブ  
ラシンバリダフロアブル, ブラシンバリダベスト粉剤DL, ブラシンバリダ粉剤DL, ブラシ  
ンフロアブル, ブラシンベスト粉剤DL, ブラシン水和剤, ブラシン粉剤DL, フルセット粉剤  
DL, ホクコーカスラブサイドスミ水和剤, ホクコーカスラブサイドスミ粉剤3DL, ホクコ  
ーカスラブサイド水和剤, ホクコーカスラブサイド粉剤3DL, ホクコーカスラブサイド粉剤  
DL, ホクコーカスラブスターナトレボン粉剤DL, ホクコーカスラブスターナ粉剤DL, ホ  
クコーカスラブスミゾル, ホクコーカスラブスミトレボン水和剤, ホクコーカスラブスミト  
レボン粉剤DL, ホクコーカスラブトレボン水和剤, ホクコーカスラブトレボン粉剤3DL, ホ  
クコーカスラブトレボン粉剤DL, ホクコーカスラブバリダシン粉剤DL, ホクコーカスラ  
ブバリダスミ水和剤, ホクコーカスラブバリダスミ粉剤3DL, ホクコーカスラブバリダト  
レボン水和剤, ホクコーカスラブバリダトレボン粉剤3DL, ホクコーカスラブバリダト  
レボン粉剤DL, ホクコーカスラブモンガード粉剤3DL, ホクコーカスラブモンガード粉剤DL, ホ  
クコースマチオン乳剤, ホクコーヒノラブスミバッサ粉剤35DL, ホクコーブラシンジョ  
ーカーフロアブル, ホクコーブラシンジョーカー粉剤DL, ホクコーブラシンゾル, ホクコー  
ブラシントレバリダ粉剤DL, ホクコーブラシントレボン水和剤, ホクコーブラシントレボン粉  
剤DL, ホクコーブラシンバリダジョーカー粉剤DL, ホクコーブラシンバリダゾル, ホクコ  
ーブラシンバリダフロアブル, ホクコーブラシンバリダ粉剤DL, ホクコーブラシンフロア  
ブル, ホクコーブラシン水和剤, ホクコーブラシン粉剤DL, ホクコーマイシン水和剤, ホク  
コーラブサイドジョーカーフロアブル, ホクコーラブサイドスミチオンゾル, ホクコーラ  
ブサイドスミチオン粉剤3DL, ホクコーラブサイドトレボンゾル, ホクコーラブサイドト  
レボンゾル17, ホクコーラブサイドトレボン粉剤DL, ホクコーラブサイドバリダシン粉剤DL, ホ  
クコーラブサイドボルドー粉剤DL, ホクコーラブサイドモンガードDF, ホクコーラ  
ブサイドモンガードゾル, ホクコーラブサイドモンガードゾル88, ホクコーラブ  
サイド粉剤DL, ホクコーラブトレバリダスミ粉剤DL, ホクコーラブバッサバリ  
ダスミ粉剤DL, ホクコーラ

ブバリダスミ粉剤3DL, ホクコーラブバリダボルドー粉剤DL, ホクコーラブリンバースミ  
 バッサ粉剤DL, ホクセット粉剤DL, モンカットラブサイド20フロアブル, モンラブF粉  
 剤DL, モンラブアブロードF粉剤DL, モンラブスミチオンF粉剤DL, モンラブトレボン  
 F粉剤DL, ヤシマスミチオン乳剤, ヤシマヒノラブサイド粉剤35DL, ヤシマヒノラブト  
 レボン粉剤35DL, ヤシマヒノラブバイアドマイヤー粉剤DL, ヤシマヒノラブバイジット  
 粉剤35DL, ヤシマヒノラブバイセレン粉剤35DL, ヤシマヒノラブバイトレボン粉剤3  
 5DL, ヤシマヒノラブバイバッサ粉剤35DL, ヤシマヒノラブモントレボン粉剤35DL,  
 ヤシマラブサイドエアー水和剤, ヤシマラブサイドスターナ粉剤DL, ヤシマラブサイドスミ  
 チオントレボン粉剤DL, ヤシマラブサイドスミチオン粉剤3DL, ヤシマラブサイドトレボ  
 ン粉剤DL, ヤシマラブサイドベフラントレボン粉剤15DL, ヤシマラブサイドベフラント  
 レボン粉剤DL, ヤシマラブサイドベフラン粉剤25DL, ヤシマラブサイドベフラン粉剤D  
 L, ヤシマラブサイドモンセレンフロアブル, ヤシマラブサイド粉剤DL, ラブカルジョーカ  
 ー粉剤DL, ラブサイドエアー水和剤, ラブサイドカルトレボン粉剤DL, ラブサイドカルモ  
 ンガード粉剤DL, ラブサイドスミチオントレボン粉剤DL, ラブサイドスミチオン粉剤3D  
 L, ラブサイドスミバッサ粉剤50DL, ラブサイドスミモンガード粉剤DL, ラブサイドト  
 レボンフロアブル, ラブサイドモンガードDF, ラブサイドモンガードゾル, ラブサイドモン  
 ガードゾル88, ラブサイドモンガードトレボンフロアブル, ラブサイドモンガード粉剤DL,  
 ラブサイド粉剤DL, ラブトレバリダスミ粉剤DL, ラブパダンバリダB粉剤DL, ラブバッ  
 サバリダスミ粉剤DL, ラブバリダスミ粉剤3DL, ラブバリダルーバンバッサ粉剤DL, ラ  
 ブモンカルジョーカー粉剤DL, ラブモンカルトレ粉剤DL, ラブモンジョーカー粉剤DL,  
 ラブルーバントレバリダ粉剤DL, ランネット45DF, ランマンフロアブル, ワイドナー2  
 号F粉剤DL, 一農スミチオン乳剤, 金鳥スミチオン乳剤, 呉羽カスラブサイド水和剤, 三共  
 アタブロン乳剤, 三共スミチオン乳剤, 三共ラブサイドスミバッサ粉剤DL, 三共ラブサイド  
 ベフラントレボン粉剤DL, 三共ラブサイドベフラン粉剤25DL, 三共ラブサイドベフラン  
 粉剤DL, 三共ラブサイド粉剤DL, 住化スミチオン乳剤, 住化ラブサイドスミチオン微粒剤  
 F, 石原アタブロン乳剤, 大塚ブイゲットグランドオンコル粒剤, 日産ストロビーフロアブル,  
 日産スミチオン乳剤, 日産モンカットラブサイドイネメイトF粉剤DL, 日産モンカットラブ  
 サイドイネメイト粉剤DL, 日産モンカットラブサイドエルサンF粉剤DL, 日産ラブサイド  
 トレボン粉剤DL, 日曹ストロビーフロアブル, 日農スミチオン乳剤, 日農ブイゲットグラン  
 ドオンコル粒剤, 日農ラブサイドスミチオン粉剤DL, 日農ラブサイド粉剤DL, 武田スミチ  
 オン乳剤, 武田ラブバリダトレボン粉剤DL, 理研スミチオン乳剤

○ 除草剤等

新規>STバトル1キロ粒剤, 黒帯1キロ粒剤, 黒帯フロアブル

変更>ゲザプリムフロアブル, ターンアウト液剤

○ 展着剤

新規>クイックタッチ

○ 失効農薬

[DIC] レトリーフロアブル, SDSザークDA1キロ粒剤36, アリババ箱粒剤, ウルフ  
 エースA1キロ粒剤36, オフナック粉剤, クミアイウルフエースA1キロ粒剤36, クミア  
 イザークDA1キロ粒剤36, クミアイバイジットミプシン粒剤, クミアイレルダンバッサ粉  
 剤DL, サンケイモレスタン水和剤, スタムDF80, ゼネカ・フジグラスA1キロ粒剤36,  
 センテ粒剤, ダブルアップ水和剤, トモノバッサ乳剤, バイエルウルフエースA1キロ粒剤3  
 6, バイエルザークDA1キロ粒剤36, バイエルターシャルカットフロアブル, バイエルヒ  
 ノラブサイド粉剤35DL, バイエルヒノラブトレボン粉剤35DL, バイエルヒノラブバイ  
 セレン粉剤35DL, バイエルプロスパーA1キロ粒剤36, バイデン乳剤, ビームバシタッ  
 クバッサ粉剤DL, ビームバッサバリダスミ粉剤3DL, フジグラスA1キロ粒剤36, ホク  
 コーバッサ乳剤, ホクコーマクパール水和剤, ホクコーレトリーフロアブル, 三共バッサ乳剤,  
 日産バッサ乳剤, 日産レトリーフロアブル, 日産レルダンバッサ粉剤DL, 日農フジグラスA  
 1キロ粒剤36, 有機銅80

※農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

### Ⅲ. 病害虫資料室

#### 【今月号の注意すべき病害虫から】

※病害虫防除所ホームページで図、写真をご覧ください。

#### ナシ

##### 黒星病

**被害の様子：**主にりん片（芽基部，果そう基部），葉，葉柄，果実などに，黒色すす状の病斑を生じ，落葉，落果，裂果を引き起こす（写真1～3）。夏から秋にかけては，葉裏に薄い墨を流したような黒色の病斑（秋型病斑）を生じる（写真4）。

**発生生態：**3月中旬頃から，前年に秋型病斑を生じた落葉上に子のう胞子が形成され，5月下旬頃まで降雨によって分散し，伝染源になる。りん片病斑（後に芽基部・果そう基部病斑となる）上に形成された分生子も開花期頃から降雨時に分散して葉や果実への伝染源となる。その後，病斑上に形成された分生子は降雨時に分散して二次伝染を繰り返す。9月以降に秋型病斑を生じた落葉は，翌年の伝染源となる。また，10～11月にはりん片への感染が盛んになり，これも翌年の伝染源となる。

#### 防除のポイント：

##### ① 伝染源の除去

- ・ 落葉は集めて土中に埋める。（この作業が出来ない場合には，ロータリをかけて，落葉をすき込むだけでも効果が期待できる）
- ・ **発病した部位は見つけ次第必ず除去し，土中深く埋める。特に春先に発病したりん片（芽基部，果そう基部）の除去は極めて重要である。**

##### ② 薬剤による防除

- ・ 防除適期は，催芽～萌芽期（3月下旬），開花前後（4月上～下旬），梅雨期（6月下旬～7月中旬）及び収穫後～秋季（9月中旬～11月上旬）である。特に，**りん片脱落直前（4月上旬），落花期（4月下旬）及び果実肥大最盛期前（7月中旬）のDMI剤\*の散布は必ず行う。**
- ・ 薬剤散布量は，10a当たり3000を目安に十分な量を丁寧に散布し，かけむらのないよう努める。

※ DMI 剤：ステロール脱メチル化阻害剤。病原菌体のステロール生合成過程における代謝の一部（脱メチル化反応）を阻害する薬剤の総称であり，現在ナシの黒星病に対する予防及び治療効果が最も期待できる薬剤である。ナシの黒星病に登録のある主な DMI 剤（平成 18 年 2 月 22 日現在）には，商品名スコア水和剤 10，インダーフロアブル，アンビルフロアブル，マネージ DF 等がある。なお，**薬剤耐性菌の出現を避けるために，DMI 剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましい。**

写真1 りん片基部上の病斑

写真2 葉柄上の病斑

写真3 果実（幼果）での被害

写真4 葉に形成された秋型病斑

#### IV. 今月の気象予報

##### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月25日から3月24日)

気象庁(平成18年2月24日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並か少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月25日(土曜日)から3月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

<2週目の予報> 3月4日(土曜日)から3月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

<3週目から4週目の予報> 3月11日(土曜日)から3月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

#### V. テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

☆普通作物 029(226)5321

3月上旬 水稲育苗期間中の病害対策について

中旬 水稲の育苗箱施用剤について

下旬 水稲の黄萎病及び縞葉枯病について

4月上旬 麦類の赤かび病対策について

☆園芸作物 029(226)6131

3月上旬 ナシ黒星病の防除及び果樹の休眠期防除について

中旬 施設野菜病害虫の発生状況と防除対策について

下旬 果樹病害虫の防除対策について

4月上旬 ナシ赤星病冬孢子堆の成熟状況について